

がまごおり

## 若者サポートステーション



鈴木康生  
☎ 67・3201

### ニートって言うのもね④

前回(10月号)、子どもを心配する親についての話をしましたが、今回はその続きです。

働いていない子どもへの心配は尽きないものだと思います。しかし、自分の心配を押しつけず、一歩引いてみて、子どもが何を感じ、どのような発言をし

ているかをじっくり見て感じる  
ことが大切です。

それは、本人の意思を尊重するとともに、子どもと親、両方の力を育むためだと考えています。どのような力かというところ、心を『感じる力』、『表す力』、『見抜く力』です。これはサポートステーションで行っている「親の集い・勉強会」で、講師の先

生が強調されるキーワードで

す。そしてその『3つの力』をバランスよく組み立てることが出来る力が大切だと先生はおっしゃっていました。この『3つの力』は誰にでもあるのですが、バランスが悪いと心が不健康になります。

冒頭で書きましたが、自分の心配を押しつけるということ、これは言葉の借りると、恐らく親の心のウエイトが『表す力』でいっぱいな状態と言えます。こうなると子どもが何をしたいかを「感じる」ことや、

何に困っているかを「見抜く」

ことが難しくなると思います。対して子どもは『感じる力』のウエイトが大きくなり、うまく自分を「表す」ことが難しくなります。そうするとコミュニケーションが成立せず、お互いに心が不健康な状態になります。

そんなとき親御さんは、『表す力』を控えてほかのふたつの力を使ってみてください。それが押しつけないことにつながります。すると相手も自分も、心のバランスを保てるようになると思います。



学芸員 小林龍二

竹島水族館  
☎ 68・2059

### 「正体は何?」

皆さん、今回はまず紙と鉛筆を用意してください。そして、これからある生き物の特徴を5つあげますので、自分なりに想像して絵に描いてみてください。

- ①目はクリクリして輝いています。
- ②髪の毛が長く、波打っています。

す。

③鼻はスラッと長く高く、顔の感じから想像すると性別はメスのようです。

④上半身はふくらましていてやはり女性的です。

⑤下半身は魚そのものので、尾ビレもちゃんと付いています。特徴は以上です。さて、どんな絵になりましたか。

おそらく皆さんが描かれた絵はなんとなく「人魚」のようになっていませんか。しかし、これは「アシカ」や「アザラシ」の特徴なのです。アシカと人魚、似ても似つかないと思います。

どこそここの川や海にアザラシが現れた!というニュースを度々聞きますよね。多摩川のタマちゃんなどがそうです。カメラもビデオもない昔の時代、同じように川や海にこれらの動物が現れたとします。今より自然が多かったので、出現頻

度は現在よりも高かったはずですよ。そんな時、こんな生き物がいた!と、最初の①から⑤のようなアシカやアザラシの特徴が人伝いにどんどん伝わると、やがて人々の連想で「人魚伝説」が作りあがるわけです。

アシカの髪は長くありませんが、これは水から上がったときに頭にへばりついたコンブやワカメだとすると、「人魚の正体は昔、人々の前にひょっこり現れたアシカやアザラシなのかも!」という説も本当なのかもしれません。